

日野 昭弘（ひの・あきひろ）

1、プロフィール

歌人。昭和 25 年頃函館中部高校在学中から作歌。一時中断するも 50 年「アララギ」に、53 年「群山」に入会し扇畑忠雄に師事。「継続は力なり」をモットーに歌を作り続けた。

<生没>

1931(昭和6)年3月18日～2001(平成13)年2月9日

<代表作>

『海と川の間』

<青森との関わり>

函館市生まれ。八戸の短歌結社「ハマナス短歌会」会長。青森県歌人懇話会理事、八戸市文化協会理事の歴任。

2、作家解説

昭和 25 年頃函館中部高校時代に友人らと文芸誌「白鳩」を作り短歌を発表。北海道大学時代では文芸誌「シュペルリング」を作り短歌を発表。29 年に青森県立八戸水産高校の教諭として八戸市に赴任し、野球部の部長・監督を務めてその間短歌を作ることを中断する。

昭和 45 年頃より再び短歌を作り地元紙に発表。50 年に「アララギ」に入会、53 年に「群山」に入会し扇畑忠雄に師事をする。又地元の八戸アララギ会、青森アララギ会、群山八戸支部にも入会。54 年に八戸の結社「ハマナス短歌会」に入会し、その後長く会長を務めた。積極的に多くの会に所属し短歌の場を作り、「継続は力なり」「初心忘れるべからず」をモットーにひたすら作歌をされた。

将来、若い人らの短歌への萌芽を期待して生徒たちにも短歌の指導に力を注いだ。「職業柄、短歌を指導した水産高生らの受賞等も述べたが、之は今問題に

なっている若い後継者育成に係わる事であり、ゆるがせに出来ない課題であると思う」と『海と川の間』の後記で述べている。

デーリー東北歌壇、北奥羽短歌大会、県南短歌大会、八戸短歌学生大会等の選者、青森県歌人懇話会理事、八戸市文化協会理を歴任。その他教育、行政関係では青森県産業教育功労者、八戸行政員、八戸市文化名監編集員で表彰を受けた。

地元の短歌の普及と発展、後継者の育成に尽力し、平成9年に八戸文化賞を受賞した。

3、資料紹介

○『海と川の間』

図書

1991(平成3)年3月18日

190mm×135mm

昭和50年から64年までの作品の中から591首を選んで年代順に収め、タイトルは海のそばの職場と川に見える自宅の行き来から名付けられた第1歌集。扇畑忠雄の序歌、田鎖亮一の題字、船越康昌の挿絵、著者の近影、後記、略歴を掲載している。